

国語(現代文) 九州大学 文学部 1 / 3

<総括>

出題数 現代文1題・古文2題・漢文1題

試験時間 120分

本文の分量が増加したが、読みやすい文章だった。客観問題がなくなり、すべて論述になった。記述量は大幅に増加。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	『聞くこと、話すこと。人が本当のことを口にするとき』大和書房(伊 雄大)
頻出度合 ・的中等	入試でしばしば見かける筆者である
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3940字→ 約4500字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	論述	標準	「!」「?」の表記に留意して考える。 「どちらも」の中身を書き、「音のズレ」を説明する。 設問の要求を踏まえ、解答範囲を確定する。 問3と同様、解答範囲の確定を慎重におこなう。 傍線部全体を説明する。「繊細さ」の解釈が鍵。 本文全体の論旨を踏まえ、傍線部を説明する。
		問2	論述	標準	
		問3	論述	標準	
		問4	論述	標準	
		問5	論述	やや難	
		問6	論述	やや難	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

評論だけでなく、柔らかめの随筆などにも触れておくとよい。  
書き取りは出ないが、読解の基礎なので対策を講じておこう。  
長大な論述に慣れておく。

国語(古文) 九州大学 文学部 2 / 3

<総括>

出題数	現代文1題・古文2題・漢文1題	試験時間	120分
-----	-----------------	------	------

二は、鎌倉時代の日記「うたたね」からの出題で、本文は読み取りにくく、設問には答えにくいものがあった。  
 三は、木下長嘯子の紀行「九州の道の記」からの出題で、本文は読み取りやすく、設問は全体的に答えやすかった。

<本文分析>

大問番号	二	三
出典 (作者)	うたたね(阿仏尼)	九州の道の記(木下長嘯子)
頻出度合 ・的中等	2024年度夏期講習『九大古典』的中	稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約520字→約580字	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約860字→約830字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	日記	問1	記述	標準	現代語訳
		問2	記述	やや易	文法問題
		問3	記述	標準	指示語の説明
		問4	記述	やや難	理由説明問題
		問5	1 客観	易	句切れの判断
			2 記述	やや難	内容説明問題
		問6	記述	やや難	内容説明問題
問7	客観	標準	文学史問題		
三	紀行	問1	記述	標準	現代語訳
		問2	記述	標準	内容説明問題
		問3	1 記述	標準	和歌の修辞法の問題
			2 記述	標準	和歌の現代語訳
		問4	記述	標準	理由説明問題
		問5	記述	標準	内容説明問題
問6	記述	標準	内容説明問題		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文法や単語といった基本の力をしっかりと身に付け、それを踏まえた解釈が出来るように学習を重ね、その上で、設問にきちんと対応できるような記述力を身に付けること。また、さまざまなジャンルの問題にあたるようにしておこう。

国語(漢文) 九州大学 文学部 3 / 3

<総括>

出題数 現代文1題・古文2題・漢文1題

試験時間 120分

二つの漢文の組み合わせから出題。呉の君主孫権から見た、臣下である諸葛瑾の人物像が述べられている。人物関係を把握するのに、注意深く本文を読み、注を確認する必要があるため、やや難しい。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	『三国志』呉志巻七「諸葛瑾」伝・裴松之注(本文・注ともに中略あり)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 219字→213字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	漢文	問1	記述	やや難	「子瑜之不負孤、猶孤之不負子瑜也。」 (1) 書き下し文に改めよ。 * 「猶(なほ~ごとし)」、「負(そむく)」がポイント。 (2) 孫権はどのようなうわさに対してこのような事を述べたのか説明せよ。 * 「或るひと」の言葉を訳せばよい。
		問2	記述	標準	「何以不留孔明。」の理由。 * 傍線部の直前をまとめる。
		問3	記述	易	書き下し文に従って返り点をつける。
		問4	記述	やや難	「其言足貫神明、今豈当有此乎。」の現代語訳。 * 反語の訳と「此」の指示内容がポイント。
		問5	記述	難	孫権が諸葛瑾をどのような人物ととらえたか。 * 傍線部の直前「神交」と孫権の言葉からポイントを拾うこと。
		問6	記述	標準	「不易」「為人」「若」の読み。
		問7	客観	やや難	後漢・三国時代に活躍した人物を選べ。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまなジャンルの漢文にふれておこう。
- ・重要語句や構文をマスターし、書き下し文に改める問題に対応できるようにしておこう。
- ・説明問題に十分対応できるように、正確な読解力と答案作成力を養っておこう。
- ・文学史・思想史に関する基礎知識を養っておこう。